

[認知症対応型共同生活介護用]

調査報告概要表

作成日 平成20年 3月 9日

【評価実施概要】

事業所番号	(※評価機関で記入) 4674800117
法人名	有限会社 ファースト・ケア
事業所名	グループホームいこい
所在地	鹿児島県出水市大久保1432-1 (電 話) 0996-83-5537
評価機関名	特定非営利活動法人 福祉21かごしま
所在地	鹿児島市真砂本町27-5 前田ビル1F
訪問調査日	平成 20 年 3 月 9 日

【情報提供票より】20年2月28日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 13 年 9 月 7 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤	8 人, 非常勤 人, 常勤換算 8 人

(2)建物概要

建物構造	木造 造り		
	1階建ての	1階 ~	1階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	10,500 円	その他の経費(月額)	円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000 円		

(4)利用者の概要(2月28日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名	
要介護1		名	要介護2	3	名	
要介護3	3	名	要介護4	3	名	
要介護5		名	要支援2		名	
年齢	平均	83 歳	最低	67 歳	最高	93 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	しもぞのクリニック
---------	-----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

鹿児島県北部に位置する町に、ディサービスと併設した設立7年目のグループホームである。1ユニットのため、利用者同士や職員との馴染みの関係をしっかり作っている。入居者全員で新幹線に乗り鹿児島市まで小旅行をしたり、「中の市」という大きな市に出かけたり、毎年、皆で楽しめるように職員一同頑張っている。生活のペースもゆったりし、職員の利用者を尊重する態度もそこここに感じられ、滞在中、食堂からの笑い声が途切れなく聞こえて来るようなグループホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価結果を玄関に設置し、閲覧できるようになっている。また、運営推進会議では結果の一部について報告を行っている。課題であった緊急時の対応で、介護の必要性の高い利用者を入りに移すなど改善を行っているが、運営理念の啓発についての検討は行っていない。以前指摘のあった身体機能の低下を補う配慮については、手すりを設置をする等改善している。
重点項目②	今回の自己評価については評価の意義や狙いを職員に伝達して理解を促し、ミーティングで検討している。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
重点項目③	民生委員・地域包括支援センター職員・自治会長・家族代表・社協・老人クラブ・社長・隣接ディサービス相談員・管理者・職員等により、概ね2ヶ月に1回開催している。会議は家族会を兼ねて行ったり、防災訓練を兼ねて行ったりしている。会議の内容として、グループホームの運営状況を報告したり、家族などから要望が出されたりしている。そして、地域との連携作りに向けての体制ができていく。しかし、会が進むに連れ参加者が限定されるようになり、より様々な地域の関係者(例えば救急隊など)に積極的に参加してもらい、認知症を理解してもらふ必要性を感じている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
重点項目④	玄関に意見箱を設置したり、第3者委員(民生委員と家族代表)を決めている。家族会の参加者も多く、家族が意見を出しやすい機会を作っている。出てきた意見は検討し家族にも報告をしている。
	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	民家が近くに多く、散歩の時は声をかけてもらうなど日頃のお付き合いができていく。また、地域行事への参加やボランティアの受け入れも行っている。

調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念・基本方針とグループホームの理念を掲示している。法人の基本方針の中に地域との密着をうたっているが、グループホーム独自の理念には地域密着型サービスの役割を明確に掲げていない。	○	地域密着型サービスとして何が大切かを事業所全体で考え、グループホーム独自の理念を再度検討することにより、さらに地域や職員の意識付けを図り、当グループホームの特徴としてもらいたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	グループホームの理念は廊下と食堂に掲示して、常に利用者や職員の目に付くようになっている。また、運営者はグループホームを訪問する度に理念について職員と共に確認し、共有を図るようにしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近くに民家が多く、散歩の時は声をかけてもらうなど、日頃のお付き合いができています。また、地域行事への参加やボランティアの受け入れも行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価結果を玄関に設置し、閲覧できるようにしている。また、運営推進会議では結果の一部について報告を行っている。「緊急時の手当て」については、介護の必要性の高い利用者を入りに移すなど改善を行っているが、「運営理念の啓発」についての検討は行っていない。以前指摘のあった「身体機能の低下を補う配慮」については、手すりの設置をする等改善している。今回の自己評価については評価の意義や狙いを職員に伝達して理解を促し、ミーティングで検討している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員・地域包括支援センター職員・自治会長・家族代表・社協・老人クラブ・社長・隣接サービス相談員・管理者・職員等により、概ね2ヶ月に1回開催している。会議は家族会を兼ねて行ったり、防災訓練を兼ねて行ったりしている。会議の内容として、グループホームの運営状況を報告したり、家族などから要望が出されたりしている。そして、地域との連携作りに向けての体制ができています。しかし、会が進むに連れ参加者が限定されるようになり、より様々な地域の関係者(例えば救急隊など)に積極的に参加してもらい、認知症を理解してもらう必要性を感じている。	○	運営推進会議の参加者が限定され、今後の運営について模索している状態だが課題もみえている。現在考えている地域との連携や認知症の理解などの課題について、今後の取り組みが期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センターが市庁舎内にあり、連絡・相談を行っている。ケアマネジャーの研修会が毎月そこで行われるため、相談しやすい環境である。また、事務手続きのために訪問する時にも、機会を見つけては担当課と連絡を取っている。市介護相談員の訪問については、まだ受け入れていない。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	金銭管理については毎月便りと共に郵送し、家族が面会に訪れた時や家族会でも説明後確認のサインをもらっている。また、健康状態を受診後や必要のある時に随時電話等で報告を行い、新しく入居した方についても便りで報告している。職員の異動は調査期間内にはない。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置したり、第3者委員(民生委員と家族代表)を決めている。家族会の参加者も多く家族から意見を出してもらう機会を作っている。出てきた意見は検討し家族にも報告をしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	調査期間内の職員の異動はない。管理者は運営者に理解を求め、職員の異動が頻繁にならないようにしている。また、職員が働きやすいよう、職員の意見に耳を傾け勤務体制に配慮している。		
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者や管理者は職員研修の重要性を認識し、施設内では2ヶ月に1回の学習会を行い、施設外研修には段階に応じて、なるべく全ての職員が研修を受けるように配慮している。受講者は文書や学習会を通じて伝達を行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者はグループホーム協会の役員会で地域の同業者と毎月1～2回の会合があり、交流を図っている。また、ケアマネ協議会が毎月開催され、同業者との交流を図っている。その他H20年度より出水・阿久根地区の研修会があらたに計画されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人が安心してサービスを利用できるように、入居当初は家族等の面会を多くしてもらい、入院していた方には付き添いを行い、退院してグループホームに入居した時に馴染みやすいようにする等の支援をしている。入居後は本人の状況をよく見ながら詳しく記録を行い、特に本人のペースに合わせて生活できるように配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と職員と一緒に家事や作業をすることで様々な会話がある。料理等昔のことを教えてもらったり、人生相談をしたり、行動を観察して感情を理解するように努めながら、支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	サービス計画書第1表に本人や家族の希望を記入している。利用開始当初不明瞭だった利用者も、生活の中で思いや意向を引き出しプランに反映させている。また、アセスメント(事前評価・課題分析)については現在様式を再検討中である。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアマネージャーは担当者会議で本人・家族やケア担当者やプランについて話し合い、計画を作成している。また、主治医には事前に照会を行い、回答を得た上で計画に反映させている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	モニタリングはケアマネージャーが3ヶ月毎に行い、変更の必要があるかどうかを判断している。また、それ以前に状況に変化があり見直しの必要がある時には、担当者会議を開いてプランの変更を行っている。	○	安定しているような利用者でも、月に1度程度は新鮮な目で本人や家族の今の意向や状況を確認し、ケア関係者の気づきやアイデアを集めて、実情に即した、あるいは変化の兆しに予防的に対応して行くための介護計画の見直しが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入院中の方に面会に行く、介護保険の申請方法等地域の方の相談に乗る、自宅で介護をしている人の気持ちを聴き相談に乗るなど、グループホームの経験を活かし柔軟な支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の意向を尊重してかかりつけ医を決め、利用者ごとに希望するかかりつけ医が決まっている。受診は基本的には家族が行うが、病院の連携室等と連絡を取りあっている。また、職員が受診の支援を行うときには、家族に電話でそのつど報告を行っている。受診後は受診記録を記載し、医師の指示や服薬方法など職員への周知を行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	グループホームで取り決めがあり、重度化した場合は他施設への転出となることを入居時に説明している。その際には、家族と相談しながら転出先を決め、家族の納得が得られる対応を行っている。		
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ケア時のプライバシー保護については、言葉遣いや語調など日頃より常に気を付け、そのつど管理者が注意している。また、個人情報の保護方針を掲示したり、入居時の説明事項へ明記し利用者や家族にも説明するとともに、記録物は事務室に保管し、職員以外の人の目に触れないようにする等秘密保持の徹底に気を付けている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	外出や買い物の希望や着る服の希望を聞くなど、その人らしい暮らしを応援している。1日の流れも体調や利用者のペースを尊重するようにしているが、まだ、職員の業務を優先させがちな言葉掛けを聞く事があり、管理者は研修などにより職員の意識の徹底を図っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物・食事の準備・後片付けなど、可能な利用者と共に行っている。また、職員も一緒に会話をしながら楽しい雰囲気での食事であり、一人ひとりのペースを大切に、食事の形態を工夫し、必要最小限の介助を行うのみである。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は基本的には曜日が決まっている。利用者の希望があればシャワー浴など随時希望を取り入れている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の希望や潜在している力を見極め、本人の気持ちを尊重している。掃除・洗濯物の整理・農作業・カラオケ・職歴を活かした仕事・他の利用者との助け合い・犬の世話等、様々な機会を見つけ場面作りを工夫している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望に応じて買い物・ドライブ・外食等、外出の支援を行っている。また、グループホームの周りの草取りや日向ぼっこなど、遠出でなくても外気に当たる機会を持つように努力している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵をかけない暮らしの大切さを理解しており、玄関の施錠は夜間以外は行わない。日中はセンサーを使用しているが、外出傾向の強い利用者の状態が落ち着き次第、使用中止の可能性を検討する予定である。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に消防署と合同で避難訓練を行い、災害マニュアルも作成している。災害に備えた備品については主食等の食品の準備があり、避難時の備品も事務室に準備している。地域との連携は運営推進会議で話題になり、対話を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養についてはバランスがとれるように気をつけている。毎日の食事量は全員記録し、飲水量は必要と認める人について記録し、把握に努めている。また、体重も毎月測定し記録し、健康状態を確認する指標のひとつになっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	中庭があり室内は明るい。また、換気や臭気には気を配り、小まめに窓の開閉をするなど配慮している。テーブルやソファを置き、気に入った過ごしやすい空間を提供している。季節の花をふんだんに飾り、落ち着ける空間を提供している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には椅子やテーブル・ベッド・箆笥など使い慣れたものを持ち込み、居心地良く過ごせるようにしている。できるだけ使っていたものを持ってきてもらうように家族にも協力を呼びかけている。		